

IV-245 陰影の固有性に関する研究（3）

－日本の伝統的建築に現れる陰影－

京都大学大学院 学生員 ○堀 秀行

京都大学工学部 学生員 荒川 英司

京都大学大学院 正 員 川崎 雅史

京都大学大学院 正 員 佐佐木 綱

1. はじめに

本研究は、人が陰影を鑑賞するという景観論的な視点から、日本の伝統的建築とその周辺に現れる陰影に関する心理評価実験を行い、その典型と景観の固有性を抽出した。

2. 陰影のイメージ分析

（1）心理実験の概要

イメージ分析は、8つの5段階形容詞対尺度（動的な－静的な、陽気な－陰気な、軽やかな－重々しい、美しい－醜い、有機的な－無機的な、女性的な－男性的な、はっきりとした－ぼんやりとした、暖かい－冷たい）による情緒的意味の評価を行った。

（2）評価対象の選定

対象とした景観写真は、京都の寺社を中心に陰影の基本類型が網羅的に映るものの中からできるだけ異なった形を表現するもの30枚を選定した。

（3）分析手法の概要

STEP1 各対象景観の各評価尺度における評価スコアの平均値を算定する。

STEP2 8つの評価言語は相関がない独立であることを仮定して、8次元空間の評価スコアによるクラスター分析を実施する。

STEP3 対象の階層全体を記述し、比較的マクロな階層概念から対象景観の特性を記述するためのミクロな階層を設定する非類似度を定める。

（4）分析結果

クラスター分析の結果得られた陰影類型の階層図を図1に示した。この階層を概観すると「静的で美的な陰影」と「男性的で有機的な陰影」に分かれ、対象のほとんどが前者のタイプに属していることが特徴である。

後者をダイナミック型と命名し、前者はさらに非類似度10.00において美的・女性的と評価されるマイルド型、静的・重厚と評価されるステイティック型、両者の評価を併せもつマイルド・ステイティック型の3つに分類できる。また、各対象景観の特徴を具体的に記述するために、より細分化されたミクロなタイプを非類似度8.40で抽出した。

①マイルド型

この型は外部空間および外部と内部空間の接点部分が該当し、明るい光の中で影が装飾的に表現されている型である。

<タイプA>「外部空間の柔らかい影」

該当景観は、屋外空間がほとんどであり、室内の場合も外部空間との連続性を保つ「影どり」である。

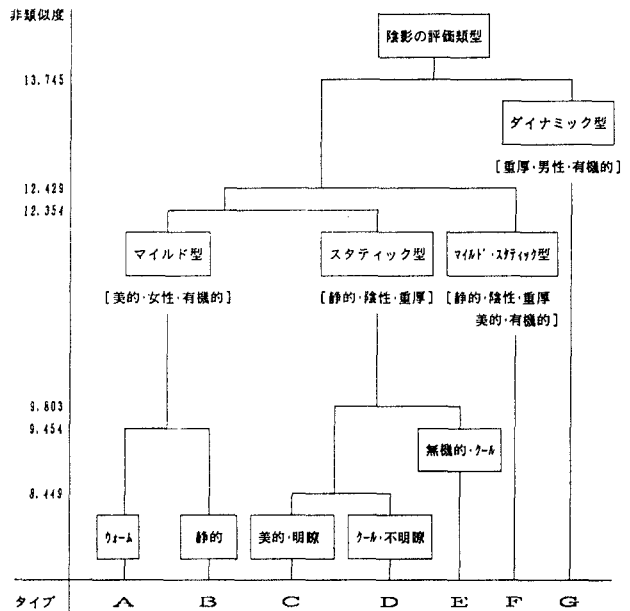
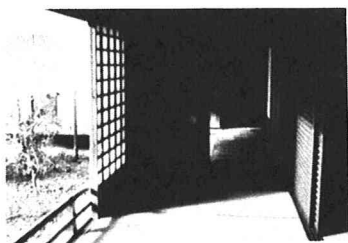


図1 情緒的意味評価による陰影の類型

<タイプB>「外と内の境界の柔らかい光どり」

該当陰影は、外部の庭に映る影と光どりの障子から柔弱な光が入り静的な印象を与え、室内に淡い陰影を形成している。



写1 マイルド型

②スタティック型

この型に該当した陰影は、固定された人工的な被写体によってできる直線で構成される幾何学模様や、室内の陰や光どりが該当する。

<タイプC>「建築部材がつくる幾何学模様」

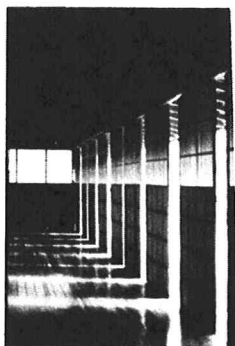
該当陰影は、連続的な幾何学模様を明瞭に呈し、日本建築の部材がもつ均整や秩序がそのまま陰影として表現される。

<タイプD>「光と明暗の境がつかない曖昧な影」

該当陰影のほとんどは、視点場を室内にもち、柔弱な光が差し込む光どりであり、壁に閉ざされた閉鎖的な空間である。

<タイプE>「無機的な格子模様」

該当タイプは、陰になっている室内空間に格子模様の光が浮かび上がっている陰影である。そのため、「陰」がクールな印象を、「光」が無機的に明瞭な印象をそれぞれ与えている。



写2 スタティック型

③マイルド・スタティック型

<タイプF>「陰の中の影」

該当景観は、伝統的に完成された庭である。庵の周りを樹木がとり囲み、その被写体は柔らかい影をつくり、さらに薄ぐらい「陰」を形成しスタティックな印象を与え、樹木から洩れた光が苔を照らして幻想的な美しさを表現している。そのため、マイルド型とスタティック型の中間的な陰影となり、静けさと美しさを兼ね備える。



写3 マイルド・スタティック型

④ダイナミック型

<タイプG>「大樹のシンボル」

該当景観が表すのは、大木の輪郭線は有機的であり、幹から幹への生命の流れや力強さを表現するダイナミックな陰影である。



写4 ダイナミック型

3. おわりに

本研究では、景観写真を用いた心理評価実験により日本の伝統空間における陰影の類型として、マイルド型、スタティック型、マイルド・スタティック型、ダイナミック型、さらに詳細に7つの陰影タイプを抽出することができた。これらは、日本の気候風土、それに基づく建築文化あるいは日本人の美意識を反映しているものであり、景観計画の際のデザインコンセプトの示唆になり得るものと思われる。

<参考文献>

佐佐木・川崎・梶谷・堀; 景観表現に現れる陰影の心象分析, 関西支部年次学術講演会, 1990.